

第13回 日本語スピーチ大会 2017

場所：かながわ県民センター 301号室

開催日：2017年11月23日（木）

スピーチ草稿集



氏名	テーマ	出身国	所属
黄 立志 (コウ リッシ)	偏見をなくして仲良く行きましょう	中国	横浜国立大学
趙 曦千恵 (チョウ ギチエ)	外国人になった私	中国	横浜国立大学
グエンワン フィ	私の夢	ベトナム	横浜国立大学
周 園 (シュウ エン)	ゴミ分別について思う	中国	横浜国立大学
呉 華章 (ゴ カショウ)	私の夢	中国	横浜国立大学
李 恩美 (イ ウンミ)	人と会う事	韓国	横浜国立大学
柳 懿秦 (リュウ イシン)	横浜での生活について	中国	横浜国立大学

■講評 山田光義氏 (RKK顧問 元横浜国立大学教授)

NPO法人 留学生と語り合う会 (RKK)



偏見をなくして仲良くいきましょう

黄 立志 (中国出身) 横浜国立大学



日本に来てから、一番深く感じることは日中両国の間に偏見が多く残っていることです。

日本人の中国人への偏見というと、まず顔です。日本に来てから、よく言われたのは「へえ、黄さんは中国人っぽい顔ではないですね」という話です。「じゃ、中国人っぽい顔はどんな感じですか？」と聞いたら、「一重まぶたで、かんこつが突き出しているかな」という返事が返ってきました。みなさん、どう思いますか？

実は56民族がある中国では中国人っぽい顔と言ったら、なかなか言いにくいですね。例えば、鼻が高くて目が大きいウイグル族のような中国人がいるし、赤みのさした頬を持って、目がキラキラしているチベット族のような中国人がいます。身長が高くて、体が丈夫な内モンゴル族のような中国人がいるし、背が高くて、丸々とした頬を持って私のような中国人もいます。56民族の中国人は多文化社会で相手の習慣を尊重しながら、仲良く生きています。

次の偏見は礼儀です。日本人は静かな環境が好きです。電車でも、レストランでも小さい声のほうがマナーがいいとされます。逆に中国では、仲間への熱情を表すために、にぎやかなほうがマナーがいいのです。熱情は中国人の生活に浸透しています。朝起きてから、6時ごろの朝市は人の往来が盛んでにぎやかです。朝食屋の前では肉まんの鍋から湯気が立っています。ジョギングしたばかりの若者は店舗にはいって「おはよう！」とあいさつして、お粥を一皿、肉まんを二個注文します。朝食を食べたばかりのお爺さんは、席を離れて公園に向かい、太極拳を練習しようとします。夜の中国でも熱情が満ち溢れています。健康維持、ダイエットを気にする中高年女性は公園や広場で音楽に合わせて踊り出します。特に決まった様式がなくて、伝統的な踊りから、社交ダンスやジャズダンス、少数民族風のものまであります。みんな、好きなグループに入って踊ります。楽しい雰囲気まで一日が終わります。このような中国人はいつでも自分の感情を素直に表して、公共場所でも自分の熱情をほかの人に伝えたいのです。

中国人の日本人への偏見というと、まず性格です。日本に来る前に、よく日本人の性格についての議論を聞きました。例えば、「日本人の心には仲間が三人しかいないです。」とか、「日本人は自分の心を他人に開かないです。」初めて日本人と接触した時にもそのイメージをもちました。時間が経つとともに、日本人の友達も多く出来ました。最初のイメージと違って性格が明るいいし、何でも話せる人が結構います。日本に来て二年間、そちらの友達にいろいろお世話になって、異文化の壁を感じないので皆すごく仲が良かったです。

次の偏見は地震が多いことです。「日本に行きますか？日本ではよく地震があつて危ないですよ。」と言われた人が多いです。最初、私もすごく心配でした。初めて地震を経験したのは一年前、県民センターの十階にいる時でした。その時、中国人の友達と一緒に話している時に、急に地震が来ました。初めて地震を経験したみんなはいらいらしてすぐ外にしようとしてました。しかし、隣の日本人はみんな意外に平気で普通の通りにミーティングをやっていました。その時、確かにびっくりしました。そのあと、これについて、日本人に「なぜ、焦らないのですか？」と聞いたら、「大きい地震なら、だれも逃げられないです。小さい地震なら、もう慣れてます。」と答えました。日本人のその「豁然」を尊敬します。

実は中国人への偏見といっても、日本人への偏見といっても、その原因はお互いに相手の文化をうまく理解しないということです。両国友好のために、偏見をなくして仲良く付き合うことが一番大事です。RKKも留学生も文化の橋の

ように両国をきちんとつなげるべきだと思います。今の私たちがしていることはすごく大切なことだと思います。これからも一緒に続けていくように頑張ります。

以上です。よろしくお願いします。

外国人になった私

趙 曦千恵（中国出身）横浜国立大学



みなさん、はじめまして、チョウ ギチエと申します。横浜国立大学の修士一年生です。中国には、大学三年目から日本に二年間留学するという制度があります。その制度を利用して、日本の城西国際大学に二年間留学しました。

そこから、私の日本の旅が始まりました。

ところで、ここにいる中国の方は、最初に日本に来て、自分が「外国人」とは思わなかったでしょう？ だけど、道で欧米の人を指して「外国人だ」とこっそり呼ぶ経験があったでしょう？ 自分も「外国人」という事実が気が付かなかったでしょう。何故かというと、私たちの顔が日本人と

似ているだけではなく、両国は地理的に近く、生き方も変わらないからだと思います。私も最初は自分が「外国人」とは思っていませんでした。しかし、日本に来てから、いろいろ経験しました。例えば、トイレを使用する際、使用後のトイレットペーパーは中国では便器に捨てず、備え付けのゴミ箱に捨てます。日本では直接便器に捨て流します。理由は皆さんはご存知ですか？これは両国のトイレットペーパーの材料の違いです。日本のトイレットペーパーは水に溶けます、中国のトイレットペーパーは水に溶けなくて、詰まりを防ぐため便器に捨てません。

そして日本は礼儀正しい国です。私は日本に来てから、日本人が「すみません」とよく言うことに気がつきました。人の足を踏んでしまった時、「すみません」と謝るのは理解できますが、なぜ足を踏まれた人も「すみません」と言うのでしょうか？“足をあなたの靴の下に入れて歩く邪魔をしてごめんなさいね”という意味ですか？それとも「すみません」と言うのはただの癖ですか？

また、日本人が「いや、申し訳ないけど……」と言う場合、彼がほんとに言いたいことは「それは違うと思う」と言っていることに気がつきました。最初、私は「あ、彼は申し訳ないと思っている」と勘違いしました。しかし多くの場合、彼が謝るという意味ではなく、お互いの緊張や恥ずかしさを和らげるために使っていることがわかりました。これはほんとうに深い文化だと思います。

さらに、私は好奇心を持っている日本人からしばしば聞かれました。「中国でも電子レンジを使いますか？」「中国でも温泉がありますか？」「日本の温泉チェーン店ではないですか？」「中国人は今も人民服を着ますか？」全てについて答えたところ、相手が信じられないといった顔をしました。「中国の現状について、どうしてこのように思われましたか」と聞きましたら、その人は「家にある何十年か前の雑誌を見て、すこし中国を知りました」と答えました。単に古い図や古い記事では、発展してきている中国を判断するのは難しいと思います。多くの日本人は中国人と交流の機会が少ないのかもしれませんが、日本人の中国へのイメージは何十年か前に留まっていると思います。このことが解ってから、私は今の中国を日本人に説明することが喜びになりました。

同じように私も日本に対して理解できないところがあります。日本人はメールを送ることに恐ろしいほどの執念があります。メールの正しい使用は、その仕事の効率を向上させることができますし、口頭比べ人に正式の文である印象

を与えます。しかし、メールはショートメールと違って常にチェックするわけではありません。緊急事態の知らせを伝えたいのに、相手がメールに気が付かず知らせを見逃すかもしれません。「再送」「至急」という言葉はいくらテーマに付けても、直接電話するほうがより効率的ではないでしょうか。私はこの経験が一度あります。ある日、大事な資料を学校の事務室のカウンターに忘れて帰りました。いろんな場所を探しましたが、見つかりませんでした。仕方なく当日深夜に急いで同じものを作りました。翌日になって事務室からの忘れ物のメールに気が付きました。メールを送ってくれたその時間にはまだ学校にいましたから、もし電話してくれていれば直ぐに気が付いて、私は直接取りに行くことができました。

日本と中国はいろんなことは一見同じですが、実は若干違いがあります。日本にいる時間を経て自分が「外国人」であるとだんだん気が付きました。私もやっと「外国人」になりました。

一方では、このようなこともありました。

日本に来てからいろんな所へ行きました。シンプルな荷物を持って、車窓から外の景色を見ながら列車と共にゆらゆらしているのは楽しみでした。ある台風の日に一人で奈良へ行きました。天気が悪く観光客が少なかったので、煎餅を持って鹿たちがすぐに回りに集まってきました。優しくな鹿煎餅売りのお爺さんに写真を撮ってくれませんかと頼みました。少し簡単な会話をした後、お爺さんに「どこの方ですか」と聞かれました。私は「中国人です」と答えました。お爺さんは信じられないような顔をして「ええ！外国人ですか？」と言われました。多分、私の日本語のアクセントが大阪弁と似ていたのでしょう、日本人と間違われました。この時、私は初めて自分の日本語能力を他人から認められました。台風でしたけど、感謝の気持ちをいっぱい持てて、いつもよりもすごく気分が晴れました。

この四年間、周りの優しい人たちのおかげで私は多くの成長を遂げました。日本語は、簡単な単語だけの会話から自分が言いたいことを話せるようになりました。バイトも、機械的な働きからお客様のニーズを聞いて商品を勧められるようになりました。

私は日本に留学して、たくさんの先生方と社会人の方に恵まれてきました。これを生かし、小さな力でも、日中友好交流に貢献していきたいと思えます。

以上で私のスピーチを終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

「私の夢」

横浜国立大学 グエン ワン フイ (ベトナム)



こんにちは

私はベトナムからまいりましたグエンワンフイと申します。横浜国立大学3年生で情報工学を勉強しています。本日、「私の夢」と題してお話します。よろしくお願ひします。

夢について考えると …このような人たちがよくいると思います。

- 自分がいったい何をしたいの？と思う若者たち
- 自分の夢を実現するのにどうすればいいかな？と思う30代以上の方々
- 本当にこれをやりたかったのかな？と思う年配の方々

このように人にとって大事な夢のことで、人生一生悩むものだろうと自分は考えています。自分のやりたいことができなかったなという悔いを持っている方々がいっぱいいるだろうと察していますので、自分の夢は何か、そのために何

を行動してきたかを今まで振り返り、整理したいと思います。

小さい頃から実現したい様々な夢の中で一番やりたい、これをやらなければ他の夢なんて意味がない夢があります。それはベトナムの発展に貢献することです。

ここまで聞いたら、偉そうなことを言いますね、と思う人もいらっしゃると思います。しかし、ベトナムの現在の事情を見て、考えるとこのような夢を持ってもおかしくありません。ベトナムの戦争から42年が経過しましたが、現在GDP（1年間の国内総生産）の一人あたりはたった5.3千万ドン（約26.5万円）日本の一般サラリーマンの月給の程度です。インフラは現在、公共の交通はバスしかありません。初めての地下鉄が現在、開発中です。しかし、まだほとんど海外の力で開発が進められています。そして、車、電子機器、プラントなどハイテクの商品もほとんどが輸入されています。つまり、経済、インフラ、技術などに色々な課題があります。そういった課題を解決し、他の国に追いつく役割はこれから若者である私たちの使命だと思っています。

夢を実現するためには自分が何か新しいことをしたいと思います。それで、日本に留学することを決断しました。ベトナムの発展に貢献したければ工業の高度化を達成した技術水準、生活水準が高い先進国で勉強するべきだと考えています。ところで、なぜ日本を選んだかと言いますと、日本はベトナムと人口と国土面積はだいたい同じで、そして、日本も戦争による大きな被害を受けました。しかし、日本の経済がなぜたった10年間だけで、どん底から復興し、「東洋の奇跡」と呼ばれるようになったか、にすごく興味を持っています。現在世界経済で3位を占めている日本において、戦争からの復興だけではなく、現代の経済発展も勉強できるだろうと思っています。さらに、技術もとてもレベル高く、Toyota, Panasonic, Sonyなど世界で有名な会社がたくさんありますので、理工系である私にとって、日本は適切な留学先と思っています。日本で勉強してベトナムに帰って自分の知識を生かして国に貢献することが来日した時の初心です。

日本で専門知識を吸収することはもちろん、日本の経済成長歴史や企業の運営仕組みなどを勉強することはこれから必要になってきます。例えば、朝鮮戦争による戦争特需の恩恵を受け、高度経済成長が始まったことと終身雇用・年功序列といった日本の企業慣行は「企業戦士」と形容される勤勉なサラリーマン層を生み出し、日本の経済を支えていることなどです。その前に日本語をもっと勉強し、日本人の考え方を理解することが不可欠なので、学校の団体や日本人との交流活動などに積極的に参加しています。さらに、ベトナムに帰って、貢献することが目的なので、日本の事情を勉強するだけではなく、ベトナムの貧しいところで現場の問題を把握することによって問題解決のために勉強する必要があります。この前ベトナムの西南部に友達と現場体験しに行き、そこで、彼らの収入や仕事が少ないなどという問題を聞きました。その問題に対して、私達はそこに自然に多くある水草から、オフィスの環境に優しいオフィス用具やインテリアなどを作製して販売システムを開発しています。もちろん作製に現地の皆さんを採用する予定です。そして、日本では「3人寄れば文殊の知恵」ということわざがあります。ベトナムでも似たことわざがあります。ベトナム語で言いますと” Một cây làm chẳng lên non, ba cây chụm lại nên hòn núi cao” です。和訳すると「一本の木は山にならず、3本の木が集まれば山になる」という意味です。私は海外で勉強しても多くの知識を持っていても同志の間がないと自分一人だけでは物事が進まないの、同級生や先輩とお話ししたり、後輩を支援したりする活動にも力を合わせています。

夢を実現するまでまだ遠い道ですが、今できることをしっかりして、知識を積み重ね、考える力を養って、RKKの皆様をはじめ、日本の多くの皆様のご支援を感謝し、ご期待に沿えるよう、毎日、夢に近づくように努力します。

ご静聴ありがとうございます。

ゴミ分別について思う

周 園（中国出身） 横浜国立大学



はじめまして、周園と申します。今日は、日本のゴミ分別について私が思うことをお話したいと思います。初めて「日本のゴミ分別」という言葉を聞いたのは北京の大学生の時です。日本語学科の授業で先生は自分の留学生生活を思い出し、ゴミ分別の話をしてくださいました。その時、私は、ゴミを分別して、指定された日に出すということだけを理解して、そんなに難しいこと

ではないと思っていました。

しかし、日本に来て、実際にやってみると、容易なことではないと感じました。大学三年生の夏休みに、短期交流のため、しばらく東京に住んだことがあります。初めて日本を見たとき、きれいな町、きれいな空気、どんなものでもちゃんと整理されていることに驚きましたが、少し悩みもありました。たとえば、食べ歩きをして、ゴミが出たとき、すぐにゴミ箱に捨てられず、しばらくバックに入れておかなければなりません。また、家庭ゴミは、燃えるゴミ、燃えないゴミ、プラスチック、ビン、缶、ペットボトルなどいろいろな種類に分ける必要があります、捨てる前にちゃんと考えないといけないです。最初は、「ペットボトルはプラスチックで作られているのに、どうして一般のプラスチックゴミと一緒に捨てられないのか」みたいな疑問もあり、私のゴミ分別は混乱し、めちゃくちゃの感じでした。でも、交流プログラムの先生の説明のおかげで、段々ゴミ分別に慣れました。日本でのゴミ分別は厳しいですが、こういうルールが作られて、日本人がそれを守るからきれいな環境ができるのだと感心しています

昨年大学を卒業して、また日本へ留学しました。前の短期交流の経験があるので、ゴミ分別に悩むことはなかったです。しかし、最近留学生交流会館を離れて外に引っ越した私にはまた新しい悩みができました。留学生交流会館ではいつでもゴミを出せることになった私は、急に指定された日や時間に指定されたゴミを出すことに直面しなければならなりません。最初の一週間は引越しと学校のことで忙しく、指定日に指定ゴミを出すことが覚えられなくて、気がついたらもう時間が過ぎていました。仕方がなくて、部屋の中に分別したゴミを次の出す時までおいておきました。今はゴミ分別と出し方のポスターを壁にはって、毎晩チェックし、次の朝に出すべきゴミを事前に準備しています。たまに、朝寝坊してしまい、忘れることもあります。時間もゴミの出し方もまだ完全に慣れていないですが、日々の生活の一環として、私も努力しています。

日本は資源が乏しい国なので、いらぬゴミでも貴重な資源と見なしています。現代の技術でゴミをリサイクルして、また役に立つものを生産するシステムこそ日本の資源不足の状況を改善して、美しい環境を守ることに繋がっていると思います。

中国の場合は、ゴミ分別を大分けすると「リサイクルできるゴミ」と「リサイクルできないゴミ」の2種類あります。道の両側にたくさん設置されているゴミ箱にこの2種類の標識がついていますが、意識してゴミを捨てる人は少数です。政府に指定された地域でゴミ分別を細かく行う実験もありました。しかし、具体的な法律規定、処理設備の設置、住民の協力意識の向上など、リサイクルシステムに重要な条件が十分に整わないため、なかなか幅広く行うことができない現状です。中国は国土が広くて資源も豊富ですが、人口に平均されると一人あたりの資源量は、実際は少ないです。もし日常生活でリサイクルをしていかないと、一日に無駄になった資源はどのぐらいの量なのか？あるいは、一年間だったらどうなのかと考えた時にはもう想像できません。

ですから、ここで私がお伝えしたいのは、将来私を含め、留学生の皆さんが自分の国に帰っても、日本で慣れてきたゴミ分別の習慣を捨てず、自分の経験をいかして周りの人々にもゴミ分別の大切さを伝えていきたいです。一人の行動の力は小さいですが、同じ意識を持つ仲間の協力があれば、少しずつ環境を変えることができると思います。

「何事も難しいことはない、最後までちゃんとやればできる」という言葉の意味は日本での留学生活でよく感じています。もちろん、ゴミ分別もその一つですね。将来自分の留学生活を思い出したとき、きっと今のいろいろな経験に感謝したいでしょう。

ご清聴ありがとうございました。

「私の夢」

呉 華章 (中国出身) 横浜国立大学



夢は人間が誰でも持っているものです。夢は人が生きていく力と希望になるといわれています。長い間、夢について人から聞かれることはありませんでした。先日、「おまえ、明日は夢の話しよう」と父さんの提案を聞いた時、「えっ、夢？私は何を言ったらいいな」と心配しました。

皆さんはどんな夢を持っているでしょうか？私にはいろいろな夢がありますが、将来、何になりたいかは

まだ考えていないのです。この間、友人と夢についての話をしたので、私は自分の夢について、真剣に考えるようになりました。

大学時代に、私は日本語を勉強し始めました。同時に、日本の文化を知るようになりました。先生たちのおかげで、日本語の学習時間をすごく楽しく過ごすことができました。大学時代の夢は、日本への留学でした。これから、もっと頑張っ、て、日本語をしっかりと勉強しようと決心しています。私にはやりたいことがいろいろありますが、将来、どんな仕事をするかを決めるのは今は難しいです。

2015年10月から、日本に留学しています。日本語を勉強しながら自分の専攻を勉強しています。留学の夢は、「日本と中国の交流の橋になりたい」ということですので、自分の専攻の学習を除いて、様々な社会活動に参加しています。できるだけ日本の社会を理解したいと思っています。中国の偉い周恩来首相の話の通り、「求同存異」（この意味は一致する点を求めて、異なる点は残しておく、大同につき小異を残す）で、私は自分の努力で、日本と中国の交流において、文化の相違を克服したいと思っています。

現在、私の専攻は国際経済法です。主要な研究分野は発展途上国のアンチダンピング問題です。私の夢について、自分の専攻を用いて、途上国と先進国の経済紛争を解決したいと思っています。ですから、今の段階で、私はいろいろな勉強不足ですので、まもなく卒業しますが、博士課程に進み、自分の研究を続けます。

それに、将来、社会人になると、思ってもいない困難がたくさん出てくるかもしれません。しかし、自分の好きな仕事ができ、毎日、楽しく過せることをいつも望んでいます。それも私の夢です。皆さんもそれぞれの夢があると思います。夢があるからこそ、日々の苦しみに耐え、明日もまた生きてゆこうという意欲が生まれます。昔からの成功者、偉人といわれる人々は、いずれも大きな夢を持ち、夢を育て、そして夢の実現のために努力した人たちです。そうはいっても、努力することを嫌い、夢だけを大きく膨らませていたのでは、いわゆる幻想で、やがてそれは、はかなく消えてしまいます。それでは、皆さん、自分の夢を持って、夢に向かって、いっしょに頑張らしましょう！

人と会うこと

李 恩美 （韓国出身） 横浜国立大学



おはようございます。
私は、今横浜国立大学にて国際協力、地域社会について勉強しています。日本に来てまもなく2年になるところです。

海外での留学生活は、他人から見れば素敵だと思われるかもしれません。異国の文化に触れながら、多様な経験をしてるんじゃない？と。そういう利点は確かにあります。韓国から行けば最低限15万円は必要な北海道に、たった6万円で行けた経験とか。笑

でも、いつも良いことばかりではありません。
私が留学生活の中で一番辛かったことは「寂しさ」と戦うことでした。日本は全世界の観点から見れば、ものすごく発展している国の一つです。

確かに経済は発展しているけれど、この国の人との接し方は、非常に難しいと思います。人との距離は非常に遠く、会話の中で目を合わせない人も多くいました。仲良くなったと思った相手にも外国人に対する「見えない壁」を感じました。家族もいないこの国で、「一人」だと思えば、大きな寂しさを感じ、何回も泣きました。

ある時、自分の考え方が完全に変わる瞬間がありました。

昨年の8月と今年の10月、研究課題であるコリアンフィリピノの研究のために、フィリピンへフィールドワークに行ってきました。

そこで私は今まで生きてきた世界とは全く違う世界を経験してきました。日本や韓国のようにものすごく発展している高層ビルの近くに、雨が降ると壊れそうな家に住む貧民たち。過酷で激しい貧富の格差を直接肌で感じた瞬間でした。

私がインタビューした子どもたちも辛い人生を歩んできました。

お金が無くて学校にも行けず、スラムに住み、ゴミを拾って、それを売ったお金で生活していた子ども、幼い時期に父が亡くなり、海外へ出稼ぎに行っている子ども、貧しくて5人兄弟が離ればなれになり、各自他の親戚の家で暮らしてきた子どもまで…。

皆さんがこういったストーリーだけを聞くと、多分「そこまで劣悪に暮らしているなんて、可哀そうに…」と思われるかもしれません。

でも、リサーチの中、私は1回も彼らのことを「可哀そう」だと考えたことがなかったのです。

なぜなら、韓国や日本では感じられなかったたくさんのことを、彼らを通して日々学んでいたからです。

彼らはただの外部者である私に積極的に近づき、暖かく接してくれました。

お姉ちゃんが治安の悪いマニラで、人に騙されるのが心配だと言いながら、手書きでフィリピン語の辞書を作ってくれました。

私がマニラの暑い天気倒れ、体調を崩した時も、心配のメッセージを送ってくれました。

体は大変でありながらも、心だけは彼らからもらった暖かさでいっぱいになった、充実した生活でした。

確かに狭い観点から見れば、彼らは貧しくて、劣悪な環境で暮らしています。

しかし、誰よりも強い信念を持っていて、独立的で自律的な存在として生き生きと暮らしています。

日本に帰ってきて、私は自分の留学生生活を省みることができました。

そして、あることに気づきました。

いつも一人で寂しいと思っていた留学生活でしたが、私自身が心を開いて周りを見てみたら、この2年間、側で力になってくれた多くの人が見えてきました。

生活に関する悩みをいつも自分事のように真剣に考えてくださったRKKの美恵子先生、

単なる学生ではなく、私の気持ちまで暖かく気を使ってくださった大学院の先生たち、

一人で家に引きこもっていた私を連れて、どこかに行ってくれる留学生の友だち、

日本語のミスや文化を優しく教えてくれた日本人の友だちなど…。

狭い観点から、人を評価していたのは私自身でした。

断られたくないから、自ら自分を引き込めていました。

たった一瞬も一人じゃなかったのに…。

皆さんは、今現在、側にいる人を見逃していませんか？

当たり前だと思ったりはしていませんか？

今、自分のそばにいてくれる、支えてくれる存在に感謝の気持ちを持つてみるのはどうでしょうか。

周りの人を大切にすることで、私の留学生活は大きく変わっていて、

今は新しい人に会えることがとても楽しみです。

ご清聴ありがとうございました。

横浜での生活について

柳 懿秦 (中国出身) 横浜国立大学



みなさま、おはようございます。柳懿秦と申します、中国は大連の生まれで、現在、横浜国立大学の博士三年生です。宜しくお願い致します。

私のスピーチのタイトルは、横浜での生活ですが、実は、来日七年間の感じについて話させていただきたいと思っております。話す前には、なぜ日本へ来たのか少し話したいです。

子供の時代を振り返ってみると、日本に留学している従兄が帰国した時、よく日本のお土産とか、おもちゃとかを買ってきてくれました。その商品の包装が綺麗だけではなくて、食べ物もおいしくて、たくさんの日本製の物が欲しいと思いました。テレビでよく日本の綺麗な環境とか、面白いアニメを見て、日本にとってもいいイメージがありました。ですから、子供の頃から、ずっと日本に憧れていました。

7年前、子供の時の気持ちを持って、日本に参りました。飛行機の中で、将来を夢見ながら、ワクワクの気持ちで富山空港につきました。

空港から出た瞬間：なんて田舎なんだ、とショックでした。まあまあ、空港だから、周りは畑しかないのは、当たり前だろう。しかし、ショック

はここだけではなく、また続きます。福井へ向かう途中は、山々が切れ目なく続き、空が暗くなるにしたがって、私の心も暗くなりました。途中は綺麗な夕焼けがありました、そこは金沢でしたよ。

皆さん、福井といったら、どんな町でしょうか。はるかに田舎の町でしょうか。越前ガニが有名な町でしょうか。コシヒカリが生まれた町でしょうか。夫婦とも働き、一軒家の住まい、残業が少ないのにお金が貯められて、日本で一番幸せな町でしょうか。これはインターネットの中の福井です。いまこそ、福井人になったつもりで生活してきた私は、もう一つの福井をお伝えしたいです。

初めて見た福井にはとてもがっかりしました。畑ばかりで、電車もバスも30分ごとで、朝未だ誰も起きていない時、カラスが屋上で鳴き叫んでいて、そのうえ、日本語学校で差別されて、毎日、死にたいという気持ちに襲われました。

春は、雨が多いから大変困りました。例えば、傘をさしながら自転車に乗って、もしお巡りさんに見られたら、犯人みたいな訊問を受けたことがありました。又「自転車の友達、危ないですよ」とアナウンスする親切なパドカーに会ったこともありました。大風がよく吹いていて、傘を持って出かけた時には雨が降らなくて、持たないで出かけた時は雨が急に降ったりしました。

夏は超暑くて、紫外線が強いから目が失明したみたいに見えなくなることがありました。蒸し暑いというより、サウナの熱さという方が適当だと思います。中国の南京、武漢ほど、暑くないというのは当てはまらないと思います。このように考えれば、横浜の夏は過ごしやすいですね。

秋が一番いい季節だなあと思いました。紅葉もあるし、天気も涼しいし、本当に快適な季節ですね。

冬は忘れがたい季節ですね。大きな雪がふわふわと降って、雪の吹きだまりができます。自転車に乗れなくて、歩道を歩くこともできなくなります。雪のせいで電車がよく遅れて、行きたいところへ行けないことがよくありました。12月から3月にかけて、曇り、雨と雪の日々が続き、太陽さんは、どこに行きました？横浜へ旅行に行きましたか？と思うようになったこともありました。

このような町に4年以上住んでいて、複雑な気持ちになってきました。多分福井はそんなに素晴らしい町ではないか

もしれないけれども、よいところがいっぱいあります。福井で食べれば食べるほど、食べ物が新鮮でおいしく感じるようになりました。住みやすいところで、景色が綺麗な場所です。又、真っ白な雪も見えます。進学で福井を離れたけれども、その風景は心に残りました。

では、横浜は、どうでしょうか。

私は、初めて横浜へ来た時を思い出せば、横浜駅で大勢な人で驚きました。四年間の田舎のゆとり生活で、この大都市に合わないと感じました。今から思い出せば、初めて横浜駅から出た瞬間に、キョロキョロしていたので、「農協観光団」だと思われたかもしれませんでした。

進学のため、2015年4月、桜はまた咲かない福井から、桜が散った横浜へ来ました。横浜での生活をやっと迎えました。

まず、横浜で恵まれたのは、便利な交通です。ラッシュアワーでは、よく使っている京急線は、1時間23本電車があって、市営地下鉄は14本がありました。それ以外の時間帯でも1時間10本があって、アクセスも良好です。勿論、田舎の電車より混雑しています。福井では、朝の通勤時間だけは、バスが1時間6本ぐらい走っています。しかし、特に昼間は1時間1本しかない電車もあって、待つ時間はかなり長く感じました。車両数が少なく、席は常に座れるわけではなく、ある程度の混雑はしています。

次は横浜のラーメンです。福井にいた時、一番好きなラーメンは八番ラーメンでした。たくさんの野菜が入って、油が少なく、野菜ラーメンの味がします。横浜でラーメンを食べたこともありますが、肉と油が多すぎる印象です。何回も食べましたが、今は辞めました。肉が多い横浜ラーメンは値段が高いと思われるかもしれませんが、わりに肉が少ない八番ラーメンの方が高かったです。

続いて、ゴミの出し方ですね。福井は特別かもしれませんが、かなり厳しいです。専用のゴミ袋、自分の住所を書いて、ちゃんと分類して出しました。住所が書かれていないゴミ袋は収集されません。マンションでは、駐在人がいてもゴミの再分類をしません。特に資源ゴミの収集日も少なく、一回忘れちゃったら、次回は一ヶ月後になりました。横浜では、スーパーの袋を使って燃やすごみとプラスチックに分ければ、ゴミが出せると感じました。間違えても、駐在人が再分類してくれます。本当に楽ですよ。

最後に、福井で出会った人と横浜で出会った人です。福井では、近所の人との付き合いが多かったです。よく周りのおじいちゃんやおばあちゃんからいろいろな野菜をいただきました。あたたかい人もいるし、非常識なむかつく年寄りかももちろんいました。横浜では、あまり近所付き合いがありません。みんな忙しいためかもしれませんね。前は伊勢佐木モールでアルバイトした時、謎の若者や怪しい男性をよくみましたが、それはホームレスだよと店の店員が教えてくれました。これも都会でなければ見られないことだろう、と思います。

さて、皆様は、静かでゆったりとした福井と、にぎやかで、生活しやすい横浜と、どちらで生活したいですか？

では、私のスピーチは、ここで終了させていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

講 評

山田光義氏 (RKK 顧問、元横浜国立大学教授)

講評をさせて頂き有難うございます。今日は皆さま非常に多数お集まりくださってどうも有難うございます。私、発足の時から顧問ということをして頂いて頂いて、皆さんと一緒に活動することを楽しんでいます。私と留学生との縁ということについては一番最近の RKK ニュースの秋の号に発表させて頂いて頂いていますので、これを読んで頂ければ非常に有難いと思います。

RKK が NPO 法人になりましたが、日本のボランティア団体は、会員には女性の方が多いのです。私もいろんなところに関係して頂いて、女子の方は日本でいつも元気で活躍しているのに、一体男は何をしているだろうというふうに思っているんです。平均年齢自体が女性の方がずっと男性よりも長いわけですから、女性が元気なのは当然だと思います。私は家内に何故女性は平均年齢が高いんだろうと聞きましたら、それは家事をやるからだ、料理をする、掃除をする、それらの段取りその他で非常に頭も使うし手先も使う、そういうことをやっているから女性は長生きなんじゃないかと、これはあるいは女性の勝手な論理かもしれませんが、いつもそういうことを言って私はしりをたたかれています。

この RKK はしかし例外的に非常に男性が多いのは心強い。その男性も日本の社会あるいは企業で活躍された男性の方々がそういう経験を生かして留学生の力になろうという、とてもいい団体だと思うので私もこれからも皆さんと一緒に活動したいと思いますし、留学生の方々もこういう社会人の方の知恵を是非学んで頂きたいと思います。

今日は、留学生のかたも論文作成とか、勉強で非常に多忙であるにも関わらず今日この日本語スピーチ大会で発表して頂いて、大変感謝しております。私は毎年聞きますけれども、今回は堂々とした発表であって、そして非常に完成度の高いスピーチであるというふうに感銘を受けました。

どういうふうな形でスピーチ大会をやろうかというんで、パワーポイントを使うというのがあるんですね。パワーポイントを使って映像を見せれば非常に理解しやすいんじゃないか、例えば自分の国の事をお話するにしてもいろんな写真を見せたいという気持ちは分かります。今はパワーポイント全盛の時代ですが、昨年に続き、今年も敢えてパワーポイントを使わないで言葉だけでやるということに踏み切ったわけですね。私はこの路線がいいんじゃないかと思うんです。言葉だけで伝えるということ、言葉の力を磨くということが非常に大事ですね、映像で伝えられるイメージというのは固定されてしまうんですね。言葉で伝えられるイメージはその言葉からさまざまなイメージを呼び起こして、そしていろいろと想像することができるということで、これはむしろ一層高度な発表形式ではないでしょうか。例を挙げると、文学作品に小説がありますね、それを日本では純文学という芸術的な作品と、大衆文学という風に大きく分けたりしますね。純文学では芥川賞というのがあって、大衆文学では直木賞があると言われて頂いて頂いて、純文学には挿絵というのがないんですね。大衆文学は挿絵があることがあります。ということは純文学が高級ということでもないんですけれども、より芸術として洗練度の高い作品を読む場合には、むしろ絵がない方がいい、その情景を、読む人がそれぞれに想像するのがいい、こういう趣旨かと思えます。

そういうことで、今回も言葉だけで発表して頂きました。それで、非常にその成果はあったと思います。今回非常に面白いのは皆さんの所属が全て横浜国立大学なんですね。私はかつて横浜国立大学で教えていましたので、嬉しい反面ちょっと複雑な気持ちでもあります。ほかの大学の人が是非参加して、さまざまな人がここでスピーチをするようになることがいいんですね、そういうことが今度は実現するといいなと思っています。

今日の発表者の方々は女性が4名、男性が3名、これもなかなかいいバランスだったと思いますね。

まず最初はコウ（黄）さんです。コウさんは「偏見をなくして仲良く行きましょう」という題なんですけれども、これは全くその通りで、どんどん実現してゆけばいいなと思うんです。しかし、中国と日本の違いは何だろうかと考えてみると日本は島国であって、国境を接したという経験がほとんどないと思うんですね、ところが中国は大陸国家であって、そしてシルクロードを通じての東西交易の歴史持っています。異文化と接触した歴史というのは中国人のほうがはるかに豊富であろうと思います。中国大陸にはさまざまな民族の人が住んでいるということで、異文化に接触した経験が豊富である。そういう中国人と日本人との文化の衝突があって、いまこのスピーチでも出てきましたけれども、日本人は中国人が集まると大きな声で騒いでいやだと、こういいますけれども、そういう習慣、その背後にはどういうことがあるか、みんなで非常に盛り上がり楽しいひと時を過ごそうではないかという、こういう中国人の気持ち、その異文化の意味というものを深く考えてみれば、異文化理解は進んでゆくのではないか、そういう風に思います。

この頃、中国人の旅行者が日本に来ることが多くて、黄さんもアルバイトでデパートで中国人の旅行者向けのインフォメーションサービスをやっているということで、中国人の旅行者が増えたということが、特に中国人留学生のアルバイトにも影響していると思います。中国人の旅行者の話なんですけれども、聞くところによると、あんないやな日本に何故行くのかと言われて、来てみると、日本いいとこじゃないかと、日本人もそんな嫌な人ばっかじゃないと言って、非常に親日的になるという傾向もあるということですね。こういうふうに旅行の前と後で、日本に対する印象ががらりと変わるいう、これは一つの交流の成果ではないかと思うんですね。そういう意味で私はこの日本人と外国人との交流がさまざまな局面でどんどん盛んになることを願っています。

かつて日本の文部科学省は留学生10万人計画というのを立てましたけれども、いま、留学生30万人計画というのがあるんですね。私は積極的にどんどん受け入れて、こういうふうに『留学生と語り合う会』のような場で、日本の一般の人々が留学生と接触する機会を沢山持つことによって、地に着いた異文化理解が進むのではないかと、そういうふうにも思いました。

次の、「外国人になった私」チョウ ギチエ（趙曦千恵）さん、名前が3字の漢字というのはたいへん珍しいんじゃないかと思うんですけれども、曦とかいてありますね、これは朝の太陽という意味なんだそうです。とっても爽やかな名前だと思います。ギチエさんは特に中国人は日本人と顔が似ている、外観ですぐには外国人だと思われていない。しかしだんだん日本に住んでいるうちに、自分が外国人だということを痛感するようになった、それがスピーチの題なんです。この題だけを見るとですね、なにか謎めいた題で、一体これにどんなお話がついてくるのかなということで一寸興味を惹かれる、そういう意味ですね、非常にうまいプレゼンテーションだと思います。

トイレトペーパーの捨て方から日本と中国の違いを痛感するというお話だったんですが、確かに日本の生活環境というのが非常にトイレを始めとして清潔であるという点は 旅行者を引き付ける魅力であるのかもしれない。

その次の、ベトナムのグエン ワン フィさんの「私の夢」なんですけれども、これは非常に真面目なスピーチだったと思います。グエンさんはまだ学部の学生であるわけなんですけれども、その夢というのはベトナムの発展に貢献するという壮大な夢なんです、そのことから何故日本を留学先に選んだかという説明があって、日本は国土、人口、面積がほぼ同じであると、それから戦争の被害を受けている、こういう点も似ている。そして日本はこの太平洋戦争のあと、高度経済成長という非常に奇跡的な、年率10%程度以上の高い経済成長が10年くらいも続いたというわけなんですけれども、どういうふうにしてこれが可能だったのか、ベトナムも今は一人当たりの国内総生産が低いけれども、かつての日本のように大きな高度成長、大きな経済成長をしてほしい、そのためにはどうしたらいいか、自分はいろいろ勉強し

て、ベトナムの発展に尽くしたいと、こういうことだと思います。

しかし、グエンさんはよく勉強しておられて、日本の高度経済成長が朝鮮戦争という、おとなりの国が非常に悲惨な戦争に巻き込まれた、それをきっかけにして成長したという若干申し訳ない部分もあったわけですね。そういう点もちろんグエンさんは押さえておられましたけれども、そういうことも含めてベトナムを立派な国にしてゆきたい、ベトナムの発展に貢献してゆきたいという非常に壮大な夢を持っておられる。そのためにも日本人との交流に積極的に尽くしていきたいと、そういうふうなことを述べておられました。私はグエンさんのような有為な人材が将来ベトナムの国を背負って立って、立派に活躍してくださるだろうということを非常に期待して楽しみに見つめてゆきたいと思っています。

次に、シュウ エン（周園）さんの「ゴミ分別について思う」これはなかなかいいスピーチで、得てしてこういうスピーチということになると、やや抽象的なテーマに流れがちなんですけれども、シュウ エンさんは非常に日常的な、具体的、身近なテーマを採り上げてゴミ出しの問題を提起されました。シュウさんは皆さんに、「今日ゴミだしをやりましたか」という質問をしました。私はちゃんとゴミ出しやってきました。ゴミ出しは私の仕事になっているんです。私はいま、鎌倉に住んでいるんですけれども、鎌倉はゴミの分別が比較的厳しい都市であると言われていますが、今日はプラスチックやビン、カンを出す日なので、そのゴミ出しをやってきました。真面目にゴミ出しをすることによって、日本の綺麗な環境が保たれている。

シュウさんは富士山に登ることが好きだということですが、富士山はいま世界遺産に登録されていますけれども、富士山のひとつの大きな問題はゴミの山になっているということです。富士山の環境を綺麗に守るためにどうしたらいいかということをお隣の自治体は一生懸命に取り組んでいるようです。ゴミ出しの問題というものは日常生活に非常に深く係わる重要な問題ですね。

また観光旅行の問題になりますけれども、非常に沢山の、中国を始めとした観光客が日本にやってきてホテルが不足するっていうんで、民泊という制度が導入されていますけれども、この民泊で問題となるのは、泊った人がゴミ出しのルールを無視するということなようです。シュウさんがこれからもゴミ出しをきちんとやりましょう、そのことによって環境が守られるんですよということを周りの人に積極的にお話ししてくださることを私は期待しています。

3Rということばがありますね、3Rとはリサイクル、リユース、リデュース、この3つを守って地球の環境を守ろうということですが、非常にシュウさんからいい言葉を聞きました。国に帰ってもゴミ分別の仕方を周りの人に話し、分別ということの大切さを周りの人にお話ししてゆきたい、こういうふうにシュウさんは話しておられましたけれども、私はシュウさんがこういう面でもいい種を撒いて下さるように期待しております。

次に、ゴ カシヨウ（呉華章）さんの「私の夢」です。ゴ カシヨウさんは私の夢として日本と中国との交流の橋になりたいとこういう風に言っておられますね、これも非常に壮大な夢で、私は是非実現して頂きたいと思うんですが、それについて思うのは日本の5千円札にはかつて新渡戸稲造という人の肖像画が印刷されていたんです。新渡戸稲造は国際連盟の事務次長もやって、『武士道』という本を書いて日本の文化を世界に知らせているんですね。大変英語が得意な方で、『武士道』という本も英語で書いたんですね。皆さんも是非読んでみられるといいと思うんですが、その新渡戸は、「私は太平洋の橋になりたい」と、こう言ったんですね。カナダで亡くなって、外国で一生を終えたんですけれども、是非、ゴさんは日本海の橋になって、中国と日本の交流に尽くして頂きたいと思います。

ゴさんの専門は国際紛争の解決に関する国際経済法ということだそうで、私はゴさんがご自分も言っておられました、「夢をますます大きく膨らませてほしい」 こういうふうに思います。

次は韓国のイ ウンミ（李恩美）さんです。この交流会でひとつ残念に思っているのは、韓国の方があまりスピーチに今まで参加されることが少なかったように思うので、今回、韓国のイさんが参加されて非常に良かったと思います。

イさんはもう就職が内定しておられて社会人として日本で働くということなのですが、私はイさんのスピーチで一番感心したことは、非常に癖のない見事な日本語のイントネーション、これは若し声だけ聞いていたら日本人と区別がつかないくらい完成度の高い日本語ではなかったかと思います。それから「人と会う事」というスピーチも大変に起承転結が見事で、上手に作られたスピーチだったと思います。

イさんはフィールドワークをされた訳ですね、フィリピンに行って、フィリピンの貧富の格差というものに非常に心を痛められた。そして日本に留学したことのメリットとデメリットがありますが、そのデメリットの中に非常に寂しさを感じた、このことがフィリピンの貧しい人々に接することによって、この寂しさを解決するのは自分の心の持ち方ではないか、自分自身が心を開くことによって周囲に溶け込んで、寂しさというものを解消することが出来るではないかということを知られた、これはフィリピンに行ったフィールドワークの貴重な成果だと思います。これから日本の社会でその見事な日本語を生かして是非また活躍して下さるようお願いします。

最後ですね、リュウ イシン（柳懿秦）さん。リュウ イシンさんがいちばん最初に福井に来て非常にがっかりされたというとても面白いスピーチで、興味深く聞きました。私、来週福井に旅行するんですけども、リュウさんのことを思い出しながら歩き回ってきたいと思うんです。とても面白いですね、日本は文明的な国ではないかと思って行ってみたら、田舎だったというところですね。そして、福井と横浜、福井の後に横浜を経験されて、この二つを対比して述べられているんですが、外国人の留学生として非常に貴重な体験だったと思うんです。大半の留学生はだいたいこの横浜とか、東京、あるいは大阪、京都という大都市圏に留学しますから、それは日本の一面しか見なかったということになるわけですね。そういう点からいうと、リュウさんは田舎と都会という二つの日本を見たということは貴重な体験をしたということです。それを喜んでほしいと思うんですね。

今、日本でいろんな問題がありますけれども、その一つの大問題は東京への一極集中ということです。東京や横浜は本当に人口が集中して混雑してくるけれども、田舎というか地方に出てみると、人跡稀というか、なかなか人がいないくらい寂れたところが多いわけですね。いま、そういう地方が村おこし、町おこしということを非常に熱心にやっていますが、私は留学生も田舎に行ってみて、そして留学生の視線から見て町おこしとか村おこしのいいアイデアがあったら自治体の方に教えてあげる、こういうこともいいのではないかと思います。

そしていちばん最後に、これも非常に巧みなスピーチの終わり方ですけども、「福井と横浜、どっちがいいでしょう、私はどう思ったかそれは秘密です」とこう言われたようですが、私は後でそっと本当のところリュウさんはどっちがいいと思ったかそれを聞いてみたいような気がします。それではリュウさんどうも有難うございました。

以上

私たちは：

留学生が留学を終了したとき、振り返って、日本に来てよかったと回想してもらえるよう、できる範囲で留学生を支援します。このことにより、親日家が増えることを期待します。

私たちのモットーは：

みんなで
少しずつ会の
運営に参加しながら
留学生がハッピーになるよう
できる範囲で
楽しくやることです。

NPO 法人 留学生と語り合う会 (RKK)

Ryugakusei to Katariau Kai (RKK)

Relationship and Kindness are the Kings of Peace

Friendship Association for International Students

and Japanese Volunteers